



- 日文翻译 / 伊吹武彦
- 中文翻译 / 许渊冲
- 编 校 / 孟 瑾



福楼拜

ボヴァリー夫人

包法利夫人

◎ 日汉对照世界名著丛书

2



包法利夫人

日汉对照世界名著丛书

包法利夫人

原 著 福楼拜 日文翻译 伊吹武彦
中文翻译 许渊冲 编 校 孟 瑾

吉 林 大 学 出 版 社

日汉对照世界名著丛书

包 法 利 夫 人

原 著 福楼拜 日文翻译 伊吹武彦

中文翻译 许渊冲 编 校 孟 瑾

责任编辑、责任校对:张显吉

封面设计:张沐沉

吉林大学出版社出版

吉林大学出版社发行

(长春市解放大路 125 号)

长春市第四印刷厂印刷

开本:850×1168 毫米 1/32

2000 年 5 月第 1 版

印张:16.375 插页:4

2000 年 5 月第 1 次印刷

字数:613 千字

印数:1 - 5 000 册

ISBN 7 - 5601 - 2371 - 6/I·122

定价:22.00 元

出版者的话

为了提高日语学习者的阅读能力和兴趣，加深对日本语言文化的理解，我们邀请了吉林大学部分日语专家和学者编写了日汉对照世界名著丛书（全译本）第一辑、第二辑。

本辑（第二辑）所选世界名著（《我是猫》、《包法利夫人》、《傲慢与偏见》、《双城记》、《呼啸山庄》），日文采用日本最著名版本，中文采用译林出版社译本，均出自我国著名翻译家之手。因此，所选版本具有权威性。

丛书采用同面相对的日汉对照方式，即日文原文与相应的中文同面对应，这样便于读者参照阅读，在两种语言环境中体会世界名著的魅力。

丛书充分考虑到了日文和中文的不同阅读习惯，在版面安排上，日文、中文均横排；日文排在上，中文排在下，既相互对应，又独立成文。使用文字字体也均采用日文和中文的通用字体。

本辑的出版，得到了日本岩波书店、日本在华日语专家东海林健先生、吉林大学外语学院的部分专家以及江苏译林出版社竺祖慈先生等的支持和帮助，在此一并表示深深的谢意。同时，由于我们的水平和力量所限，不足之处在所难免，敬请读者不吝赐教。

吉林大学出版社

2000年5月

第一部

—

私たちが自習室で勉強していると、そこへ校長が、平服を着た「新入」と、大きな机をかついだ小使を連れてはいってきた。いねむりしていた連中は眼をさました。そしてだれも彼もが勉強中に不意をうたれた体で起立した。

校長は私たちに着席の合図をした。それから助教のほうに向きなおって、「ロジェ君」と小声になり、「この生徒は、二学年へ編入じゃ、よろしくたのむ。もし学力操行ともによければ、年相応の『上級』へあげることにしよう」

扉のかげのすみにいるのでよくは見えぬが、この「新入」は十五くらいの田舎者で、身丈は私たちのだれよりも高かった。村の聖歌手のように髪をおかっぱにし、かしこまり、すっかりてれていた。肩幅は広くないが、黒ボタンのついた緑のラシヤのチョッキは、袖つけがいかに窮屈そうで、いつもむきだしているらしい赤い手首が、袖飾りの切りこみのあいだからのぞいていた。ズボンつりできつくつりあげた淡黄色のズボンから、青靴下をはいた脚がのぞいている。みがきの悪い、鋳打ちの頑丈な靴をはいていた。

第一部

—

我们正在上自习，忽然校长进来了，后面跟着一个没有穿学生装的新学生，还有一个小校工，却端着一张大书桌。正在打瞌睡的学生也醒过来了，个个站了起来，仿佛功课受到打扰似的。

校长做了个手势，要我们坐下，然后转过身去，低声对班主任说：

“罗杰先生，我把这个学生交托给你了，让他上五年级吧。要是他的功课和品行都够格的话，再让他升高班，他的岁数已经够大的了。”

这个新生坐在门背后的角落里，门一开，谁也看不见他。他是一个小乡巴佬，大约有十五岁，个子比我们哪一个都高。他的头发顺着前额剪齐，像乡下教堂里的歌童，看起来又懂事，又不自在。他的肩膀虽然不算宽，可是那件黑纽扣小外衣一定穿得太紧，袖口绷开了线缝的地方，露出了晒红的手腕，一看就知道是卷起袖子干惯了活的。浅黄色的长裤子给背带吊得太高，漏出了穿蓝袜子的小腿。脚上穿了一双不常擦油的钉鞋。

読み方がはじまった。彼はお説教でも聞くように足も組まず、ひじもつかず、耳をすまして謹聴した。二時に鐘が鳴ったとき、助教は、皆といっし上に整理せよと注意せねばならなかった。

私たちは教室へはいるとき、早く空手になるように、帽子を床へほうり投げるしきりになっていた。帽子がパツと土ばかりを立てて壁にあたるように、しきいのところから腰掛けの下をねらって投げねばならぬ。それが「しゃれてる」のだった。

しかるに「新入」は、このしかたに気づかないのか、それとも見習う度胸がないのか、祈禱かすんでもまだ帽子を両膝にのせていた。その帽子は、コサック帽や槍騎兵帽や丸帽子、川瀬帽やナイト・キャップをつきませた獨式のかぶりものだった。つまり、その黙々とした醜さにかえて白痴の顔のような深刻な表情のある、世にもあわれなしろものだった。それは楕円形で、鯨骨を張り、まずいちばん下には輪形の丸縁が三つ重なっている。つぎにピロードの菱模様とうさぎの毛の菱模様とが、赤線に仕切られてたがいちがいになり、その上には袋のようなものがあり、その上に多角形の厚紙を置き、これにはこみいった飾り紐でいちめんに縫い取りをほどこし、そこから金糸の小さい飾りを房にして、むやみと細長い紐の先にぶらさげてあった。帽子は新しく、底は光っていた。

「起立」と先生がいった。

大家背起书来。他竖起耳朵来听，专心得好像在教堂里听传道，连腿也不敢跷，胳膊也不敢放在书桌上。两点钟下课铃响的时候，要不是班主任提醒他，他也不知道和我们一齐排队。

我们平时有个习惯，一进教室，就把帽子抛在地上，以免拿在手里碍事；因此，一跨过门槛，就得把帽子扔到长凳底下，并且还要靠墙，掀起一片尘土；这已经成为规矩了。

不知道这个新生是没有注意到我们这一套，还是不敢跟大家一样做，课前的祷告做完之后，他还把鸭舌帽放在膝盖上。他的帽子像是一盘大杂烩，看不出到底是皮帽、军帽、圆顶帽、尖嘴帽还是睡帽，反正是便宜货，说不出的难看，好像哑巴吃了黄连后的苦脸。帽子是鸡蛋形的，里面用铁丝支撑着，帽口有三道滚边；往上是交错的菱形丝绒和兔皮，中间有条红线隔开；再往上是口袋似的帽筒；帽顶是多边的硬壳纸，纸上蒙着复杂的彩绣，还有一根细长的饰带，末端吊着一个金线结成的小十字架作为坠子。帽子是新的，帽檐还闪光呢。

“站起来，”老师说。

彼は起立した。帽子が落ちる。組じゅうが笑いだした。

かがんで拾おうとすると、隣の生徒がひじで帽子を突き落とした。彼はもういちど拾いあげた。

「まあかぶとを脱ぎたまえ」と、とんち屋の先生がいった。

生徒たちがどっときたので、かわいそうに少年はまごついて、帽子を手を持っていたものか床に置いたものか、それともかぶったものかわからなくなった。彼はまた腰をおろして帽子を膝に置いた。

「起立して名をいいたまえ」と先生はことばをつく。

「新入」はせきこんで、わけのわからぬ名を名のった。

「もういちど！」

組じゅうの罵声に打ち消されて、同じ早口のことばが聞こえた。

「もっと大きく！」と教師は叫んだ。「もっと大きく！」

そこで大決心をふるいおこした「新入」は開口一番、だれかひとでも呼ぶように、声をかぎりに「シャルボヴァリー」と絶叫した。

どつとはげしいさわぎが起こって、金切り声とともにしだいしだいに高まった（皆はわめき、うなり、足ふみ鳴らして、「シャルボヴァリー！シャルボヴァリー！」とくりかえした）。

他一起立，鸭舌帽就掉了。全班人都笑了起来。

他弯下腰去拿帽子。旁边一个学生用胳膊捅了他一下，帽子又掉了，他又拣了一回。

“不必担心，你的王冠不会摔坏，”老师很风趣地说。

学生都哈哈大笑起来，可怜的新生更加手足无措，不知道帽子应该拿在手里，还是让它掉在地下，还是把它戴在头上。他到底又坐下了，帽子还是放在膝盖上。

“站起来，”老师再说一遍，“告诉你你叫什么名字。”

新生口里含了萝卜似地说了一个听不清楚的名字。

“再说一遍！”

新生还是说了个稀里糊涂的名字，全班都笑得更厉害了。

“声音高点！”老师喊道，“声音高点！”

于是新生狠下决心，张开血盆大口，像在呼救似的，使出了吃奶的力气叫道：“下坡花力！”

这下好了，笑声叫声直线上升，越来越闹，有的声音尖得刺耳，有的像狼号，有的像狗叫，有人跺脚，有人学舌：“下坡花力！下坡花力！”

ボヴァリー夫人

さわぎはやっとしずまって、きれぎれにつづくかと思うと、しのび笑いが残って花火のようにまだここかしこ起こっている腰掛けの列で、ときどき急にまたどっともりかえした。

しかし雨と降る宿題の命令に組はだんだんとしずまった。先生はようやくシャルル・ボヴァリーという名前を聞きとり、それを発音させ、つづらせ、読みかえさせてから、ただちにこのあわれむべき少年を、教壇の下の劣等席につかせた。少年は動く^{けい}気配を見せたが、出かける前にもじもじした。

「何を^{なん}探^{たん}しとる？」先生が聞いた。

「私の帽……」と、あたりを不安げに見まわしながら「新入」はおそろおそろいった。

「全級、詩五百行の宿題だ！」先生のどなるそのことばが、大波を^{しや}叱りつける海神の叫びのように、またしても起こる喧噪^{けんそう}のあらしをしずめた。「静かにせんか！」と、先生はおこつてなおもつづけた。そして帽子のなかから取ってきたハンカチで顔をふきながら、「新入生、君は「ridiculus sum(われは笑い者なり)」という動詞を二十ぺん書いてきたまえ」

それから声をやわらげて、

「何、見つかるよ、帽子は。盗まれたんじゃあるまいし」

すべてが静肅にかえた。生徒たちの頭は紙ばさみの上にかがみ、

好不容易才变成零星的叫声，慢慢静了下来，但是一排板凳好像一串爆竹，说不准什么时候还会爆发出一两声压制不住的笑声，犹如死灰复燃的爆竹一样。

老师只好用罚做功课的雨点，来淋湿爆竹，总算逐渐恢复了教室里的秩序；老师又要新生听写、拼音，翻来复去地念，才搞清楚了他的名字是夏尔·包法利，就罚这条可怜虫坐到讲台前懒学生坐的板凳上去。他正要去，又站住了。

“你找什么？”老师问道。

“我的……”新生心神不定，眼睛左右张望，胆小怕事地说。

“全班罚抄五百行诗！”教师一声令下，就像海神镇压风浪一般，压下了一场方兴未艾的风暴。

“都不许闹！”老师生气了，一面从高筒帽里掏出手帕来擦满脸的汗水，一面接着说：“至于你呢，新来的学生，你给我抄二十遍拉丁动词‘笑’的变位法。”

然后，他用温和一点的声音说：

“你的帽子嘛，回头就会找到，没有人抢你的！”

一切恢复平静。头都低下来做练习了。

「新入」は二時間のあいだお手本になるほど行儀よくしていた。もっとも、ときどきペン先に突き刺して投げる紙の玉が、顔にあたってインキのとばしりをつけたけれども、手で顔をふいて、服を伏せたまま動かなかった。

晩の自習時間には、机から袖あてを出してつけ、こまごました持物を整頓し、紙へていねいに筆を引いた。見ると、単語をいちいち辞書で引き、四苦八苦しながら、しごくまじめに勉強している。こうまでの熱心さを示したおかげであろう、彼は落第をせずにすんだ。というのは、彼は文法の規則こそひととおり心得てはいたが、言いまわしのほうはうまくなかったからである。両親が倏約からできるだけ遅くまで学校へやらなかったのも、ラテン語の手ほどきは村の司祭がしてくれたのだった。

父親はシャルル・ドニ・バルトロメ・ボヴァリーという軍医補あがりで、一八一二年ごろ徴兵事件に連座して、その当時退職となった。そこで、彼は生来の美貌^{びよう}を利用し、どうどうたる風采^{ふうさい}にほれてきたさるメリヤス屋の娘に六万フランの持参金がついているのをまんまとせしめた。美男子でほらふきで、拍車の音を高らかに響かせ、頬ひげは口ひげに境を接し、指にはいつもたくさんの指輪をはめ、はでな色物を身につけて、まるで豪傑のような風貌^{ふうぼう}と、行商人のような安っぽい快活さをそなえていた。いざ結婚すると、二、三年は妻の財産で生活し、たらふく食って朝寝坊して、大きな瀬戸物のパイプをふかし、晩は興行物がはねてからでなければ帰ってこず、カフェーへもしげしげ通うありさまであった。

新生端端正正坐了两个钟头，虽然说不定什么时候，不知道什么人的笔尖就会弹出一个纸团来，溅他一脸墨水。他只用手擦擦脸，依然一动不动，也不抬头看一眼。

上晚自习的时候，他从书桌里拿出袖套来，把文具摆得整整齐齐，细心地用尺在纸上划线。我们看他真用功，个个词都不厌其烦地查词典。当然，他就是靠了他表现的这股劲头，才没有降到低年级去；因为他即使勉强懂得文法规则，但是用词造句并不高明。他的拉丁文是本村神甫给他启蒙的。他的父母为了省钱，不是拖得实在不能再拖了，还不肯送他上学堂。

他的父亲夏尔·德尼·巴托洛梅·包法利，原来是军医的助手，在一八一二年左右的征兵案件中受到了连累，不得不在这时离开部队。好在他那堂堂一表的人材，赢得了一家衣帽店老板女儿的欢心，使他顺便捞到了六万法郎的嫁妆。他的长相漂亮，喜欢吹牛，总使他靴子上的马刺铿锵作响，嘴唇上边的胡子和络腮胡子连成一片，手指上总戴着戒指，衣服又穿得光彩夺目，外表看起来像个勇士，平易近人又像个推销员。一结了婚，头两三年他就靠老婆的钱过日子，吃得好，起得晚，用瓷烟斗一大斗、一大斗地吸烟，晚上不看完戏不回家，还是咖啡馆的常客。

そのうち妻の父親が死んだが、たいした金も残してはくれなかった。彼は憤然として身を「製造業」に投じたが損をし、それから田舎へ引っこんで「農場経営」をこころざした。しかし彼が農業に暗いのは、インド更紗製造に暗かったのと同じで、馬は畑へやらずに自分が乗りまわし、りんご酒は樽売りせずじょうで飲み、飼養場とびきりの鶏を食いつぶし、豚のあぶらで靴をみがくというやり方なので、間もなく、いっさいの思惑は打ちきるにしかずと、みずからさとする羽目になった。

そこで、年二百フランの約束で、コー地方とピカルディー地方との境の村に、農家と屋敷と半々のような家を借り受けた。彼は快楽として楽しまず、後悔にさいなまれ、天をうらみひとをそねみ、彼のことばによれば人間どもに愛想をつかし、余生を静かにおくる覚悟で、四十五歳の若さでそこに引きこもった。

彼の妻は昔は彼に夢中であった。下手に下手にと出て夫を愛したのが、かえっていいよ夫を自分から遠ざけることになった。昔は、陽気で快活で情の深い女であったが、年をとるにつれて——ちょうど気の抜けたぶどう酒が酢になるように——氣むずかしくなり、金切り声をあげ、神経過敏になった。自分の夫が村の娘とさえいえば、その尻を追いかけるのを見たときや、晩になって、夫があちこちの悪所から堪能した熟柿くさい息をはきながら帰ってきたとき、彼女はすいぶん苦しんだ。しかし最初は苦情ひとついわずにやがて自尊心が反抗の頭をもたげた。そこで彼女は、無言の隠忍主義のなかへ憤怒をぐっと飲みこんで、口をつぐみ、

岳父死了，没有留下多少财产，他不高兴，要开一家纺织厂，又蚀了本，只好回到乡下，想在那里显显身手。但是，他既不懂得织布，又不懂得种地；他的马不是用来耕耘，而是用来驰骋；他的苹果酒不是一桶一桶卖掉，而是一瓶一瓶喝光；他院子里最好的鸡鸭，都供自己食用；他的猪油也用来擦亮自己打猎穿的皮鞋；不消多久，他发现自己最好打消一切发财的念头。

于是他一年花两百法郎，在科州和皮卡迪交界的一个村子里，租了一所半田庄、半住宅的房子。他灰心丧气，怨天尤人，从四十五岁起，就关门闭户，说是厌倦人世，决意只过安静的日子了。

他的妻子从前爱他简直着了魔，简直是对他百依百顺；不料她越顺着他，他却越远着她。她本来脾气好，感情外露，爱情专一，后来上了年纪，就像走了气的酒会变酸一样，也变得难相处了，说话唠叨，神经紧张。她吃了多少苦呵！起初看见他追逼逐臭，碰到村里的浪荡女人们都不放过；夜里醉得人事不省，满身酒气，从多少下流地方给送回家来，她都没有抱怨。后来，她的自尊心受了伤，只好不言不语，忍气吞声，逆来顺受，

その隠忍主義を死ぬまで守った。彼女はたえず用事でかけずりまわった。代言人や裁判長をたずねたり、手形の支払日を思いだしては、しばしの猶予を請うたりした。家にいればアイロンかけや縫い物や洗い物をし、人夫を監督したり、勘定を払ったりした。しかるに主人公はなんの屈託もなく、いつも仏頂面^{ぶつちやうづら}していねむりに前後不覚、眼をさませば妻にいやがらせをいうばかりで、灰のなかにつばをはきながら暖炉のわきでたばこをくゆらしていた。

彼女が子供を生むと、その子を里子にやることになった。両親の手許へ帰ってくると、子供は若様のように甘やかされた。母親はしきりにジャムを食べさせる。父親は素足で走りまわらせる。そしてひとかど思想家ぶって、この子は獣の子のように、素裸で歩かせてもよいのだなどといった。母親の傾向とは反対に、彼の頭には少年期にたいする一種の男性的理想があつて、それによって息子をしつけようとし、体格をよくするためにスパルタ式にきびしく育てたがつた。火の気のない部屋に寝かせたり、ラム酒のがぶ飲みを仕こんだり、教会の行列を罵倒することを教えたりした。しかし生まれつきおとなしいこの子は、うまく彼の努力についてこなかった。母親はいつもこの子をそばに連れていた。厚紙を切ってやったり、お話をしてやったり、彼を相手に、さびしいふざけや、くどい甘やかしにみちみちた果てしないひとりげりふを聞かせるのであつた。捨小舟^{すておぶね}のようにさびしい彼女は、さんざんに打ちこわされた自分の虚栄をすべてこの少年のうえに託した。

就这样过了一辈子。她还得到处奔波，忙这忙那。她得去见诉讼代理人，去见法庭庭长，记住什么时候期票到期，办理延期付款；在家里，她又得缝缝补补，洗洗烫烫，监督工人，开发工钱。而她的丈夫却什么也不管，从早到晚都昏沉沉、懒洋洋，仿佛在跟人赌气似的，稍微清醒一点就对她说不忘恩负义的话，缩在火炉旁边吸烟，向炉灰里吐痰。

等到她生了一个男孩，却不得不交给奶妈喂养。小把戏断奶回家后，又把他惯得像一个小王子，母亲喂他果酱，父亲却让他光着脚丫子满地跑，还冒充哲学家，说什么小畜牲一丝不挂，可能活得更好。父母对孩子的想法背道而驰，父亲头脑里有男人的理想，他要按照斯巴达的方式严格训练儿子，好让他有强健的体格。他要儿子冬天睡觉不生火，教他大口喝甘蔗酒，看见教堂游行的队伍就说粗话。可是小孩子天性驯良，辜负了父亲的苦心，枉费了他的精力。母亲总把儿子带在身边，为他剪硬纸板，给他讲故事，没完没了地自言自语，快乐中有几分忧郁，亲热得又过于啰唆。她的日子过得孤寂，就把支离破碎的幻想全都寄托在孩子身上。

彼女は立身出世を夢み、この子が早や大きく美しくひとかどの才子になって、土木局か法曹界におさまっている姿を想像した。子供に読み方を教え、手持ちの古ピアノで唄の二つ三つも歌うことを教えた。しかし文芸に気のないボヴァリー氏は、それにたいしていちいち「むだなことだ」といった。いったい、この子を官立学校に入れておいたり、公吏の株や商売の株を買ってやるだけのものが家にあるのか。それに、「男は押しさえあれば、世のなかでかならず成功するのだ」などといった。ボヴァリー夫人は唇をかみ、子供は村をほつき歩いた。

彼は百姓のあとにつきまわった。そして土くれを投げては飛び去るからすを追いかけた。堀割りに沿って桑の実を食べ歩いたり、長い竿を持って七面鳥の番をしたり、収穫の時分には刈草を干したり、森のなかをかけまわったり、雨の日には教会堂の玄関先で石けりをしたり、大祭日には、鐘の大綱にぶちざがって、綱といっしょにゆれ動くあの気持ちを味わうために、堂守にたのんで鐘をつかせてもらったりした。

そこで彼はかしの木のように成長した。手は頑丈になり、血色もよくなった。

十二のとき、母親はこの子に勉強をはじめさせる許しをえた。それは司祭に一任された。しかし授業は短くきれぎれなので、ものの役にはたちそうもなかった。授業があるのは手すきのときである。洗礼式と葬式のあいまなど、聖器室のなかで立ったままあわただしくやった。

她梦想着高官厚禄，仿佛看见他已经长大成人，漂亮、聪明，不管是修筑桥梁公路也好，做官执法也好，都有所成就了。她教他认字，甚至弹着一架早买的旧钢琴，教他唱两三支小调。但是对这一套，重财轻文的包法利先生却说是太划不来了。难道他们有条件供养他上公立学校，将来买个一官半职，或者盘进一家店面？再说，一个人只要胆大脸皮厚，总会有得意的日子。包法利太太只好咬咬嘴唇，让孩子在村里吊儿郎当。

他跟庄稼汉后面，用土块打得乌鸦东飞西跑。他沿着沟摘黑莓吃，手里拿根竹竿，却说是在看管火鸡；到了收获季节他就翻晒谷子，在树林里东奔西跑；下雨天他在教堂门廊下的地上画方格，玩跳房子的游戏，碰到节日他就求教堂的管事让他敲钟，好把身子吊在粗绳上，绳子来回摆动，他就觉得在随风飞舞。

因此，他长得像一棵硬木树，手臂结实，肤色健美。

十二岁上，他母亲才得到允许，让他开始学习。他的启蒙老师是教堂的神甫。不过上课的时间太短，又不固定，起不了多大作用。功课都是忙里偷闲教的，刚刚行过洗礼，又要举行葬礼，中间有点闲暇，就站在圣器室里，匆匆忙忙讲上一课；

でなければ、お告^{つげ}の祈りがすんで外出^{とで}の用のないときに、司祭は弟子を呼びにやった。司祭の部屋へあがって席につく。羽虫や蛾^ががろうそくのまわりを飛びまわる。暑いので少年はよくいねむりする。すると老僧は両手を腹にのせてまどろむかと思うと、やがて口を開いてびきをかきはじめる。またあるときは、司祭が近所の病人に臨終^{せいしん}の聖餐^{せいさん}をもたらしての帰り道、シャルルが野原でいたずらしているのを見かけると、呼びつけてものの十五分も説教し、それをしおに木蔭で動詞の変化を練習させることもあった。ところが雨が降ってきたり、知合いのひとが通りかかったりして、それもおじゃんになった。もっとも司祭はいつもこの子にはご満悦で、この「若いの」はたいそう物覚えがよいとさえるのだった。

シャルルの勉強はこんなところでやめてはならぬと、夫人は強硬に出た。一本まいて、というよりも根負けして、主人公はいいなりになった。そしてこの子が初聖^{はつせい}体をすますまで、もう一年待った。

また六カ月たった。そしてその翌年、シャルルはいよいよルアンの学校へやられることになり、十月も末、聖口マンの市^{いち}のころに、父親が自分で連れていった。

しかしいまでは、われわれ級友のうち彼についてこれという思い出のある者はひとりもあるまい。彼はおとなしい子であった。遊ぶときには遊び、勉強する時間には勉強し、教室では謹聴し、寝室では熟睡し、食堂ではたらふく食べた。保証人はガントリー街に住む金物の卸屋^{おろしや}で、一月に一回日曜日に、店をしめてから彼を外出^{ひとつぎ}

或者是在晚祷之后，神甫不出门了，又叫人去把学生找来。他们两人上得楼来，走进他的房间，于是各就各位；苍蝇和蛾子也围着蜡烛飞舞。天气一热，孩子就打瞌睡；神甫双手压在肚皮上，昏昏沉沉，不消多久，也就张嘴打起鼾来。有时，神甫给附近的病人行过临终圣礼回家，看见夏尔在田地里顽皮捣乱，就把他喊住，训了他刻把钟，并且利用机会，叫他在树底下背动词变位表。但不是天下雨，就是过路的熟人，把他们的功课打断了。尽管如此，神甫对他一直表示满意，甚至还说：“小伙子记性挺好。”

夏尔不能就停留在这一步呀。母亲一抓紧，父亲问心有愧，或者是嫌累了，居然不反对就退了步，但还是又拖了一年，等到这个顽童行过第一次圣体瞻礼再说。

六个月一晃就过去了，第二年十月底，夏尔总算进了卢昂中学，还是过圣·罗曼节期间，他父亲来看热闹时，亲自把他带来的。

时过境迁，我们现在谁也不记得他的事了，只知道他脾气好，玩的时候玩，读书的时候读书，在教室听讲，在寝室睡觉，在餐厅就餐。他的家长代理人是手套街一家五金批发店的老板，每个月接他出来一次，总是在星期天铺子关门之后，打发他到

させ、港へ船を見にやり、七時、夕飯前になると学校へ連れもどった。木曜日の晩、少年は母親に長い手紙を書いた。赤インキで書いて封印を三つ押した。それから歴史のノートを復習したり、自習室にほうりだしてある古本の『アナカルシス』を読んだりした。遠足のときには小使と話をした。この小使も彼と同じ田舎者だった。

勉強のおかげで彼はいつも組のなかほどにいた。博物の試験でいちど良の一番を取ったことさえある。ところが四年生の終わりにになると、両親は彼が独力で大学の入学資格を取るところまで押せるだろうと思いこみ、医学修業のために中学を退校させた。

母親は知合いの染物屋の、オー・ド・ロベック川に面した五階に子供の部屋をえらんでやった。下宿代をとりきめ、家具すなわち机一台と椅子二脚^{いす}を買求め、自宅から桜村の古ベッドを取り寄せ、おまけにいとし子を暖めるための、小さい鉄ストーブと薪を買った。そしてその週の終わりに、これからはひとりだから、まじめにするようにと、くれぐれもいいふくめて帰っていった。

講義一覧を掲示で読んだとき、彼はぼうぜんとした。^{かいぼう}解剖学講義、病理学講義、生理学講義、調剤学講義、化学、植物学、臨床、治療学の講義、それに衛生学や薬物学というまでもなかった。どれもこれも、語原のわからない字ばかりで、そのひとつひとつが彼には莊嚴^{そうごん}の闇たちこめる聖廟^{せいびやう}の扉のように思われた。

碼頭去逛逛，看看船来船往，然后一到七点，就送他回学校晚餐。每个星期四晚上，他给母亲写一封长信，用的是红墨水，还用三块小面团封口；然后他就复习历史课的笔记，或者在自习室里读一本过时的、情节拖沓的《希腊游记》，散步的时候，他老是和校工聊天，因为他们两个都是乡下来的。

靠了用功，他在班上总是保持中下水平；有一回考博物学，他虽然没有得奖，却受到了表扬。但是，到三年级结束的时候，他的父母要他退学，并且要他学医，说是相信他会出人头地，得到学位的。

他的母亲认识罗伯克河岸一家洗染店，就在四层楼上为他找了一间房子。她把他的膳宿安排停当，弄来几件家具，一张桌子，两把椅子，还从家里运来一张樱桃木的旧床，另外买了一个生铁小火炉，储存了一堆木柴，准备可怜的孩子过冬取暖之用。住了一个礼拜之后，她才回乡下去，临行前还千叮咛、万嘱咐，说现在就只剩下他一个人了，一定要会照管自己。

布告栏里的功课表使他头昏脑涨：解剖学、病理学、生理学、药剂学、化学、植物学、诊断学、治疗学，还不提卫生学和药材学，一个个名词他都搞不清来龙去脉，看起来好像神庙的大门，里面庄严肃穆，一片黑暗。

講義は全然わからなかった。懸命にきいても意味がつかめない。しかし彼は勉強した。つづりこみのノートを持ち、どの講義にも出席し、ただのいちども回診をかかしたことはなかった。ちょうど仕こまれている馬が、自分で何を苦しんでやっているのかわからずに、目かくしのままキリキリ回るように、彼はその日その日のささやかな仕事を果たしていった。

費用をはぶいてやるために、母親は毎週飛脚に託して天火烧の積肉を一切れずつ送ってよこした。病院から帰っているときは、彼は靴底で壁をけて足をやめながら、その肉で朝飯を食べた。それからほうぼうの道を通って、講義へ、階段教室へ、養育院へかけつけ、家へ帰らねばならなかった。晩は下宿のおそまつな夕食をすましてからまた自分の部屋へあがり、しめた服を身につけたままでふたび勉強にとりかかった。服は真っ赤に熱したストーブのまゝで全身から湯気を立てた。

美しい夏の宵、なまあたたかい町々には人通りもたえ、女中たちが家の戸口で羽根つきをして遊ぶころ、彼はよく窓を開いてひじをついた。川が、ルアン市のこの境界を醜悪な小ヴェニスのように見せて、眼下に低く、黄に紫にまたは青に、橋や鉄柵のあいだを流れていた。労働者たちが川のほとりにうずくまって、両腕を水で洗っていた。屋根裏部屋から突きだした竿に木綿糸の袷が干してあった。向こうの屋根のかなたにはすみきった大空がひろがり、そこには沈んでゆく赤い夕陽のかげがあった。あのあたりへいったらどんなにいい気持ちだろう！ぶなの木蔭はどんなに涼しいことだろう！

他什么也不懂，听讲也是白搭，一点也没理解。不过他很用功，笔记订了一本又是一本，上课每堂都到，实习一次不缺。他完成繁琐的日常工作，就像蒙住眼睛拉磨的马一样，转来转去也不知道磨的是什么。

为了省得他花钱，他的母亲每个星期都托邮车给他带来一大块叉烧小牛肉。他上午从医院回来，就靠着墙顿脚取暖，吃叉烧肉当午餐。然后又是上课，上阶梯教室，上救济院，上完课再穿街过巷，回住所来。晚上，他吃过房东不丰盛的晚餐，又上楼回房间用功。他身上穿的衣服给汗水浸湿了，背靠着烧红了的小火炉，一直冒汽。

到了夏天美好的黄昏时刻，闷热的街头巷尾都空荡荡的，只有女佣人在大门口踢毽子。他打开窗户，凭窗眺望，看见底下的小河流过桥梁柵栏，颜色有黄有紫有蓝，使卢昂这个街区变成了见不得人的小威尼斯。有几个工人蹲在河边洗胳膊。阁楼里伸出去的竿子上，晾着一束一束的棉线。对面屋顶上是一望无际的青天，还有一轮西沉的红日。乡下该多好呵！山毛榉下该多凉爽呵！

彼は鼻^{びく}腔を開いてところよい野のかおりをかごうとした。しかし彼のところまでは匂^{にお}ってこなかった。

彼はやせて身丈が伸びた。そして顔は悩ましげな表情を帯びてきた。そのためにまずひととおりは見られるほどの顔になった。

ずるずるべつたりにのんきな気持ちから、彼はとうとう、かねての覚悟をみんな捨てた。回診をいちどなまけ、その翌日は講義を休んだ。そしてなまけ心地のよさを味わいながら、だんだん学校へは出なくなった。

彼は居酒屋通いのくせがつくとともにドミノに熱中した。毎晩、うすぎたないクラブにこもって、黒い点々のついた小さい羊の骨のドミノ札を、大理石のテーブルにたたきつけるのは、われながらえらくなったような、なんとなく尊い、自由の行為とも思われた。それはいわば、はじめて世間を知ることであった。禁断の快楽に近づくことであった。彼はこの部屋へはいりがけに、肉感に近いよろこびを感じながら扉の握りに手をかけた。こうなると、いままで内におさえていたなにもかにもがふくれた。喉^{のど}を覚えて、寄ってくる女たちに歌って聞かせたり、俗謡作者ベランジェに熱中したり、ポンスの作り方を覚えたりした。そしてとうとう色恋を知った。

こういう下稽古^{したげこ}をやったおかげで、彼はみごと、免許医試験に落第した。ちょうどその晩、家では彼の及第を祝おうとその帰りを待っていたのに！

彼は徒歩で出かけた。そして村のはずれに立ちどまり、そこへ母親を呼び寄せて

他张开鼻孔去吸田野的清香，可惜只闻到一股热气。

他消瘦了，身材变得修长，脸上流露出一种哀怨的表情，更容易得到别人的关怀。

人只要一马虎，就会自然而然地摆脱决心的束缚。有一次，他没去实习，第二天，又没去上课，一尝到偷懒的甜头，慢慢就进得去出不来了。

他养成了上小酒馆的习惯，在那里玩骨牌玩得入了迷。每天晚上关在一个肮脏的赌窟里，在大理石台子上，掷着有黑点的小羊骨头骰子，在他看来，似乎是难能可贵的自由行动，抬高了他在自己眼里的身价。这就像是头一回走进花花世界尝到禁脔一样；在进门的时候，把手指放在门扶手上，心里已经涌起肉欲般的快感了。那时，压在内心深处种种欲望都冒了出来；他学会了对女伴唱小调，兴高采烈地唱贝朗瑞的歌曲，能调五味酒，最后，还懂得了谈情说爱。

他这样准备医生考试，结果当然是彻底失败。当天晚上，他家里还在等他回来开庆功会呢！

他动身走回家去，一到村口又站住了，托人把母亲找出来，

いっさいを打ちあげた。母親は落第を試験官の不公平のせいにして許してやった。そして後始末を引き受けて彼をいささか安心させた。それから五年たって、ボヴァリー氏ははじめて事の真相を知った。なにぶんにも古いことなので彼も得心した。そのうえ、自分の血をうけた人間がばかであるとは思えなかった。

シャルルはまた勉強をはじめ、試験に出る範囲をひっきりなしに準備し、試験問題は前もってぜんぶ暗唱した。彼は相当な成績で及第した。母親にとってはなんとといううれしい日！盛大な晩餐会が開かれた。

どこで開業させようか。トストがよい。そこには年寄りの医者が一人居るきりだ。ボヴァリー夫人はひさしくその人の死ぬのを待っていた。が、じいさんのまだ冥途へ旅立ちしない先に、シャルルはあとがまととしてその向かいに陣取ったのである。

しかし、息子を育てて、医学を仕こみ、開業させるためにトストを見つけただけではまだ足りない。息子には嫁が必要だ。母親は一人の嫁を見つけた。ディエップに住んでいる執達吏の未亡人で、年齢は四十五、年収は千二百フランあった。不器量で、薪のようにひからびて、木の芽立ちのように、にきびだらけの女ではあったが、このデュビュク夫人にもむろんえり好みするだけの相手はあった。ボヴァリー夫人は自分の思惑をとげるために、競争相手をことごとく押しのけねばならなかった。坊様連中に尻押しされた豚肉屋の策動さえ、彼女はあざやかに裏をかいた。

一五一十都告訴了她。母亲原谅儿子，反而责怪主考人不公平，没有让他通过，并且说父亲面前由她来交代，这就给他吃了定心丸。等到五年以后，包法利先生才知道考试真相；事情已经过去，不能再算陈年老账，何况他怎能相信自己生的儿子会是蠢才呢！

于是夏尔重新复习功课，继续准备考试，并且事先把考过的题目都背得烂熟。他总算通过了，成绩还算良好。这对他的母亲来说，简直是个大喜的日子：他们大摆喜筵。

到哪里去行医呢？去托特吧。那里只有一个老医生。很久以来，包法利太太就巴不得他死掉。不等老头子卷铺盖，夏尔就在他对面住下，迫不及待地要接班呢！

好不容易把儿子带大了，让他学会了行医谋生，帮他在托特挂牌开业，这还不算完：他还没成家呢。她又给他娶了一房媳妇，那是迪埃普一个事务员的寡妇，四十五岁，一年有一千二百法郎的收入。

杜比克家的寡妇虽然长得丑，骨瘦如柴，满脸的疙瘩像春天发芽的树枝，但并不愁嫁不出去，供她挑选的还不乏其人。为了达到目的，包法利大娘不得不费尽心机，把对手都挤掉，甚至有一个猪肉店老板，得到几个神甫撑腰，也给她巧施妙计，破坏了好事。